Creation of a Movie Introducing Kanazawa University Museum as a Response to Temporary Closure of Museum

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: MATSUNAGA, Atsushi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061604

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

臨時休館対応としての
金沢大学資料館紹介動画作成について

Creation of a Movie Introducing Kanazawa University Museum as a Response to Temporary Closure of Museum

松永篤知

Atsushi MATSUNAGA

金沢大学　資料館　特任助教

Assistant Professor, Kanazawa University Museum

Abstract

Kanazawa University Museum was temporarily closed from March 2, 2020 to June 18. That is a countermeasure against the spread of a new coronavirus (SARS-CoV-2) infection. In reaction to this, while the museum is temporarily closed, I created a movie introducing the museum and post it on the web.

In this paper, I describe the creation of a movie introducing Kanazawa University Museum as an example of responses to temporary closure of museum.

1.はじめに

令和2年3月2日から6月18日にかけての間、金沢大学資料館（以下資料館と呼ぶ）は臨時休館となった。これは、新型コロナウィルス（SARS-CoV-2）の感染拡大を受けてとった対策である。この新型コロナウィルスによる感染症（COVID-19、2019新型コロナウィルスによる急性呼吸器疾患）は、それ以前のコロナウィルス感染症であるSARS（重症急性呼吸器症候群）やMERS（中東呼吸器症候群）をはるかに上回る世界的脅威となって、日本国内でも極めて深刻な問題となった。その感染拡大を防ぐための対策は、不特定多数の来館者が訪れる博物館施設においても急務となり、特に2月27日から東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館の国立博物館4館が休館して以降は、全国各地の博物館・美術館で同様の措置が取られることになった。

そのような状況下で、当資料館の来館者は通常一日数名～数十名程度であるが、感染リスクをできる限り回避するために、同様の休館措置をとった次第である。今になってみても、これは正しい選択だったと思う。しかし、資料館というものは、どんな形であっても、人の目に触れなければほとんど意味がない。そこで、臨時休館中の対応として、筆者が資料館紹介動画を作ってウェブ上で公開することになった。

本稿では、臨時休館対応の一例として、この資料館紹介動画の作成について述べる。通常、博物館施設の臨時休館は避けるべきことであるが、今回の新型コロナウィルス対策のように、やむを得ず急遽休館とする場合が今後ないとは言えない。本稿が、そのような事態となった際の一つの参考となれば幸いである。

2.資料館紹介動画作成の経緯

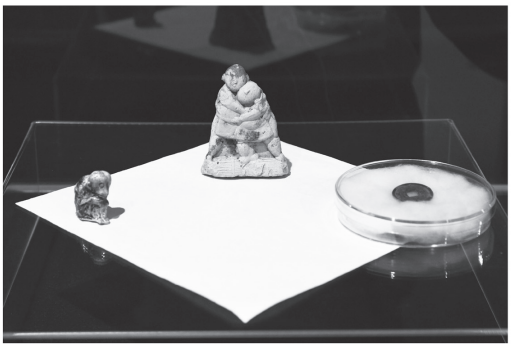
令和2年2月6日から、資料館展示室では本学埋蔵文化財調査センターとの連携企画展「財（たから）のまち！？宝町―宝町遺跡第19次発掘調査速報展―」を開催していた。これは、筆者が令和元年5月～7月に実施した宝町遺跡第19次発掘調査の成果を速報的に紹介するもので[1)]、実際の出土遺物と発掘調査現場の写真パネルを組合せて展示していた（写真1）。

この企画展の会期は、元々3月6日までの予定であったが、新型コロナウィルスの感染が国内で拡大していく中、奥野正幸資料館長の判断で一週間早く2月28日をもって終了とし、以後臨時休館に入った。1か月弱で369人の来館者があり、大学の休み期間中の冬季企画展としては健闘していただけに、会期終了日の繰り上げは残念であったが（金沢大学資料館2020）、2月21日に石川県内初の感染者が確認されてから28日には6例目まで増えており、臨時休館はむしろ最善の策であった。なお、時を同じくして、金沢市の32文化施設も、2月29日から3月15日まで臨時休館となっている。

ところで、資料館では、この新型コロナウィルス問題がなかったとしても、展示室の入口自動ドア化工事と天窓遮光工事のため、3月9日から2週間程度休館することになっていた。これらの工事は、数名の業者が出入りするだけだったため、臨時休館中に予定通り施工された。

残念ながら、工事期間中に新型コロナウィルスが終息することはなく、3月後半も休館を続けることになった。ただ、3月19日の第3回令和元年度資料館委員会の時点では、県内感染者が一桁台でとどまっていたこともあり、何とか4月6日に常設展（展示室工事に合わせて内容は大幅にリニューアル）を学内利用に限って再開、それから4月14日に企画展（前身校の写真展）も学内利

1. 財のまち！？宝町 展示会場



2. 磁器製サル（左）・力士土人形（中央）・寛永通宝（右）

3. 土師質土器皿

4. 発掘調査の道具

写真1 「財のまち！？宝町」展の様子

用に限って開催を目指すことになった。その予定に合わせて、筆者を含む資料館員は、3月下旬から4月上旬にかけて、常設展・企画展の準備を進めた。

しかし、4月に入って県内の感染者数が急増、4月5日には金沢市が33文化施設の再休館措置を発表する事態となった。当館では、4月3日までに常設展のリニューアル作業は終わっていたが、この状況悪化を受けて4月6日の再開は断念、当面の間臨時休館を続けることになった。

その後、4月7日の資料館定例打合せで、奥野正幸資料館長から「せっかくリニューアルした常設展を、臨時休館中に何とかウェブ上で発信できないか」という提案があり、予算的にも時間的にも余裕がない中、筆者が自前で資料館紹介動画の作成を試みることになったのである。

3.資料館紹介動画作成の過程

資料館紹介動画について、当館には過去にそのような先例はなく[2)]、筆者も動画作成の経験は全くなかったため、試行錯誤しながら動画を作り上げた。その過程を、参考までに以下に記す。

さて、動画を作成する方法としては、ビデオカメラで対象（今回であれば資料館の建物や展示資料）を撮影することが真っ先に思い浮かぶ。しかし、そもそも当館にはそのような機材はないし、たとえあったとしても素人がビデオ撮影した動画はどうしても粗が出る。また、本学の学内規則で物品を直接購入することもできないため、ビデオカメラの納品がいつになるのか分からず、場合によっては発信のタイミングを逸してしまう可能性が懸念された。ビデオカメラがなくても、スマー

トフォンやデジタルカメラの動画撮影機能を使うという選択肢もあったが、動画撮影に特化したビデオカメラに比べれば少なからず質が落ちるだろうし、臨時休館中になるべく早く発信することが求められる中で、不慣れな動画編集をする手間も避けたいところであった。

それならば、Microsoft PowerPointでスライドショーを作り、それにアニメーションやバックグラウンドミュージックを付けて動画形式で書き出す方法が適切で迅速であると考えた。

そこで、4月8～10日の間に、一眼レフカメラで資料館の外観や展示室内の写真を撮影し、それをPowerPoint上で57枚のスライドに並べた。それらに、タイトルや資料名、解説文などのテキストを追加し、BGM（著作権フリーの音楽サイト[3]の音楽素材を使用）や画面切り替え、アニメーションなどの効果を加えてタイミング調整をした。

各資料の解説文については、UDデジタル教科書体を選択・使用した。これは、デジタル教科書等のICT教育用に開発されたユニバーサルデザインの書体で、誰にとっても見やすく読みやすいように作られている。ウェブ上で学内外に広く発信するにあたり非常に適した書体であると考え、これを使用することにした。なお、このUDデジタル教科書体は、Windows10に標準搭載されているため、わざわざ追加購入する必要もないという点も利点として挙げられる。この書体で、各スライド50～60字程度の解説文を作成し、字幕状にしてスライド下部に付した。

そして、4月13日に、何とか5分22秒の試作版が出来上がった。これを、資料館員のチェックを受けて一部修正し、4月17日に最終版が完成した。写真や文章については、ほとんど修正意見が出なかったが、動画のスピードについては早すぎるという意見が複数出た。そのため、スライドの長さ（画面切り替えのタイミング）を延ばすことにした。より詳しく言えば、当初のスライドは1枚6秒（解説文を読む時間＝1秒10文字程度）を基本にしていたが、日本語字幕には1秒で4文字という目安があるとされ[4]、スライド1枚13秒を基本に延ばすことで適度な長さ（解説文を読む時間＝1秒4文字程度）になった。結果として、最終的な動画全体の長さは、試作版のちょうど2倍の時間である10分44秒に落ち着いた。

4. 資料館紹介動画の内容

資料館紹介動画作成の経緯と過程について述べてきたが、完成した動画の内容を以下に紹介したい。もちろん、動画としてはYouTubeで見ていただいた方が良いが[5]、動画への情報の記載の仕方などを整理した形で記しておきたい。

まず、冒頭部分は、資料館の外観・内観写真とともに、館の概要について述べた。

冒頭部分

使用写真：資料館展示室外観、中央図書館・資料館棟外観、資料館展示室入口、資料館展示室内観（写真2）

解説文：〔1〕金沢大学資料館は、金沢大学角間キャンパス内、中央図書館・資料館棟の一角にある学内共同利用施設です。

〔2〕平成元（1989）年、城内キャンパス（現金沢城公園）から角間キャンパスへの移転に伴い、貴重な資料を散逸させないために設立されました。

〔3〕旧制第四高等学校等、金沢大学の前身校由来のものも含め、モノ資料約77,000点、文書資料約11,000点を所蔵しています。

1. 資料館展示室外観（1）

2. 中央図書館・資料館棟外観

3. 資料館展示室外観（2）

4. 資料館展示室入口

5. 資料館展示室内観（1）

6. 資料館展示室内観（2）

写真２　動画冒頭部分の画面写真

〔4〕平成28（2016）年に博物館法上の博物館相当施設に指定され、平成29（2017）年には加賀藩校扁額が金沢市の有形文化財に指定されました。

〔5〕この動画では、令和2（2020）年4月にリニューアルオープンする予定だった常設展示の中から、代表的なものをご紹介します。

それから、常設展の各資料について、展示順路（図1）に沿って紹介した。実際は、4月上旬のうちに前期企画展の展示作業も終わっていたが、さすがにそれは資料館が再開した時に見てもらおうということで、動画には入れないことにした。逆に動画に入れる資料として、資料館唯一の指定文化財である加賀藩校扁額や、国内屈指のコレクションで有名な四高物理実験機器・キノコムラージュ標本は絶対に外せないと考えた。また、金沢大学および人間社会学域・理工学域・医薬保健学域それぞれの前身校（旧制第四高等学校・石川県師範学校・金沢高等工業学校・旧制金沢医科大学

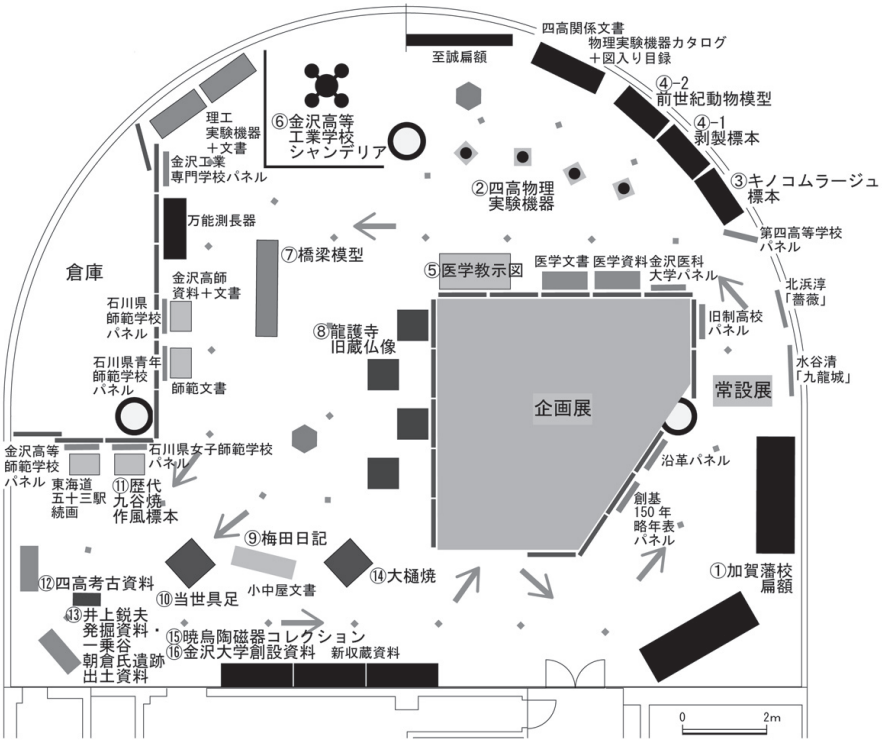


図1　資料館令和2年度前半期展示室レイアウト図

等）に関する資料を必ず1点は出すべきと考えた。さらに画面上の見映えなどを検討した結果、最終的に資料館紹介動画で紹介することにしたのは、以下の①～⑯の資料である。

資料紹介部分

①加賀藩校扁額

使用写真（写真3-1・2）：加賀藩校扁額「明倫堂」、「経武館」

解説文：〔1〕当館所蔵品唯一の指定文化財です。加賀藩が寛政4（1792）年に作った藩校、明倫堂と経武館に掲げられていた2枚の扁額です。

〔2〕両者とも、加賀藩細工所の沢阜忠平の作で、最大長約3ｍ、重さ約100kgを測ります。現存する藩校扁額の中でも最大級のものです。

②四高物理実験機器

使用写真（写真3-3・4）：物理実験機器 サイレン、モールス氏電信機

解説文：〔1〕金沢大学の前身校の中で最も有名な、旧制第四高等学校で使われていた物理実験機器群です。200点以上を誇る、全国屈指のコレクションです。

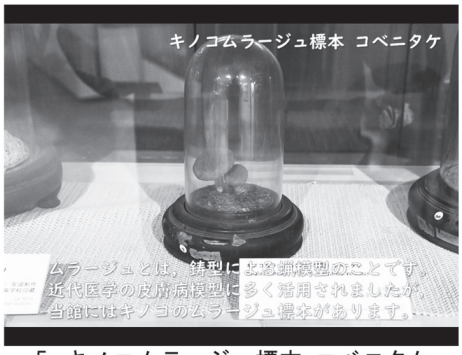
〔2〕明治から昭和初期にかけて作られた、当時の最新機器です。なお、県に分割移管された機器約700点は現在石川県立自然史資料館にあります。

1. 加賀藩校扁額「明倫堂」

2. 加賀藩校扁額「経武館」

3. 四高物理実験機器 サイレン

4. 四高物理実験機器 モールス氏電信機



5. キノコムラージュ標本 コベニタケ

6. キノコムラージュ標本 ナラタケ・アカジコウ

7. 剥製標本 キツネザル

8. 前世紀動物模型 ブロントサウルス

写真３　動画資料紹介部分の画面写真１

③キノコムラージュ標本

使用写真（写真3-5・6）：キノコムラージュ標本 コベニタケ、アカジコウ、ナラタケ

解説文：〔1〕ムラージュとは、鋳型による蝋模型のことです。近代医学の皮膚病模型に多く活用されましたが、当館にはキノコのムラージュ標本があります。

〔2〕大正期に、山越工作所によって製作されました。キノコのムラージュは、金沢大学以外では東京大学と北海道大学でしか確認されていません。

④剥製標本・前世紀動物模型

使用写真（写真3-7・8）：剥製標本 キツネザル、前世紀動物模型 ブロントサウルス

解説文：〔1〕当館には、様々な動物の標本や模型があります。その一つが剥製標本で、国内外の動物の外観を本物そのままに作られています。

〔2〕もう一つは前世紀動物模型で、恐竜など古生物を象った陶製品です。これらの標本・模型から四高生は動物の姿形を学びました。

⑤医学教示図

使用写真（写真4-1）：医学教示図 人体局所解剖図

解説文：〔1〕医薬保健学域の前身校である第四高等学校医学部や旧制金沢医科大学などで医学教育に使われていた視覚教材です。

〔2〕主に、石版画（リトグラフ）で作られています。いずれも非常に精緻な図で、筋肉や血管、神経の細部に至るまで丁寧に描かれています。

⑥金沢高等工業学校シャンデリア

使用写真（写真4-2）：金沢高等工業学校シャンデリア

解説文：〔1〕理工学域の前身校の一つである金沢高等工業学校（大正9（1920）年～昭和26（1951）年）の講堂にあったシャンデリアです。

〔2〕講堂は昭和49（1974）年に取り壊されましたが、2基のうち一つが小立野キャンパス（旧工学部）で保管され、最終的に当館所蔵となりました。

⑦橋梁模型

使用写真（写真4-3）：橋梁模型 下路アーチ橋

解説文：〔1〕金沢高等工業学校で教育教材として使用されていた橋梁模型です。島津製作所が制作したもので、当資料館では3点を所蔵しています。

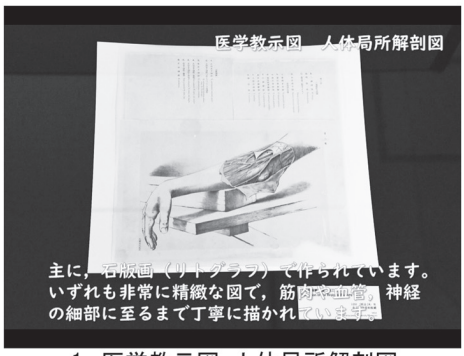
〔2〕この動画の橋梁模型は、「下路アーチ橋」で、かつて大阪市の木津川にかかっていた旧大正橋と見られます。

⑧龍護寺旧蔵仏像

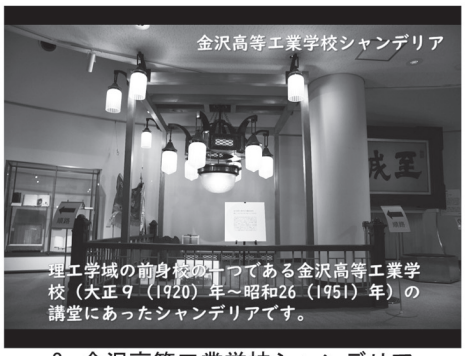
使用写真（写真4-4）：龍護寺旧蔵仏像 如来坐像、菩薩立像、天部（2躯）

解説文：〔1〕志賀町の龍護寺にあった木造仏4躯です。昭和27（1952）年に金沢大学の美術教員だった米林勝二が彫刻の参考品として譲り受けたものです。

〔2〕欠損が多く、詳細な尊名は不明ですが、如来坐像・菩薩立像・天部（2躯）から成ります。



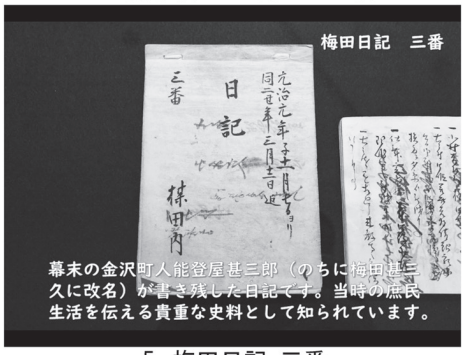
1. 医学教示図　人体局所解剖図



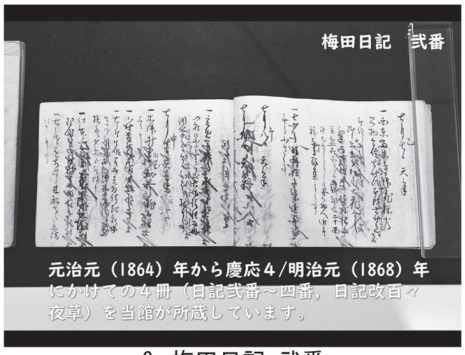
2. 金沢高等工業学校シャンデリア

3. 橋梁模型　下路アーチ橋

4. 龍護寺旧蔵仏像

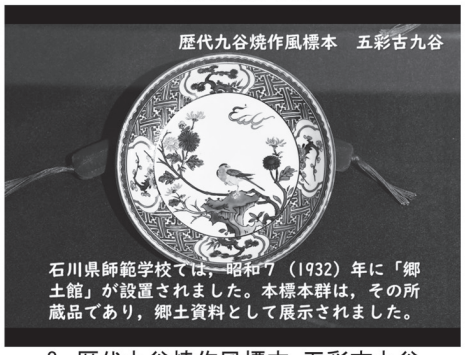


5. 梅田日記　三番



6. 梅田日記　弐番

7. 当世具足　紺糸威二枚胴具足



8. 歴代九谷焼作風標本　五彩古九谷

写真４　動画資料紹介部分の画面写真２

4躯とも平安時代の作で、稀少な古仏群です。

⑨梅田日記

使用写真（写真4-5・6）：梅田日記 弐番、三番

解説文：〔1〕幕末の金沢町人能登屋甚三郎（のちに梅田甚三久に改名）が書き残した日記です。当時の庶民生活を伝える貴重な史料として知られています。

〔2〕元治元（1864）年から慶応4/明治元（1868）年にかけての4冊（日記弐番～四番、日記改百々夜草）を当館が所蔵しています。

⑩当世具足

使用写真（写真4-7）：当世具足 紺糸威二枚胴具足

解説文：〔1〕江戸時代の甲冑です。「当世具足」とは「今風の新しい甲冑」を意味します。当館では、2領の当世具足を所蔵しています。

〔2〕当館の当世具足の兜の前面には、「金猪の目」の前立が付いています。これは、加賀藩直臣の合印です。

⑪歴代九谷焼作風標本

使用写真（写真4-8）：歴代九谷作風標本 五彩古九谷

解説文：〔1〕石川県師範学校の郷土教育に使われていた九谷焼の標本群です。径16㎝の小皿（全20枚）に、歴代九谷焼の各種作風が再現されています。

〔2〕石川県師範学校では、昭和7（1932）年に「郷土館」が設置されました。本標本群は、その所蔵品であり、郷土資料として展示されました。

⑫四高考古資料

使用写真（写真5-1・2）：四高考古資料 埴輪（巫女）、縄文土器、須恵器杯身、須恵器杯身・杯蓋、珠洲焼甕

解説文：〔1〕明治28（1895）年に設立された北陸人類学会の収集品を核とする考古資料群です。同会は、四高教員の須藤求馬が発起人でした。

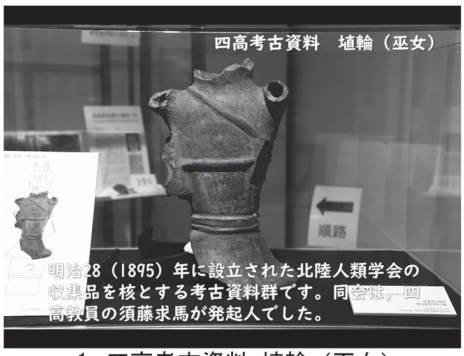
〔2〕資料群の内容としては、北陸地方を中心に、縄文時代から中世までの各種遺物が揃っています。四高時代の人々の収集活動の賜物です。

⑬井上鋭夫発掘資料・一乗谷朝倉氏遺跡出土資料

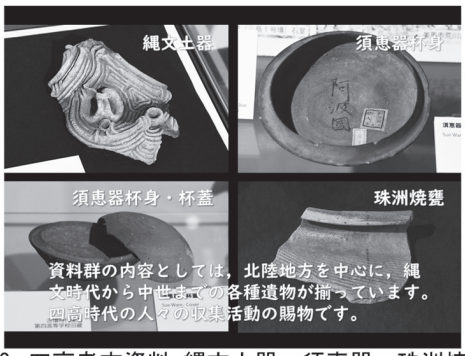
使用写真（写真5-3・4）：井上鋭夫発掘資料 瓦・土師質土器皿、一乗谷朝倉氏遺跡出土資料 越前焼甕

解説文：〔1〕「井上鋭夫発掘資料」は、金沢大学日本史教員だった井上鋭夫の発掘調査に関する資料群です。昭和40年代の金沢城跡出土品がその中心です。

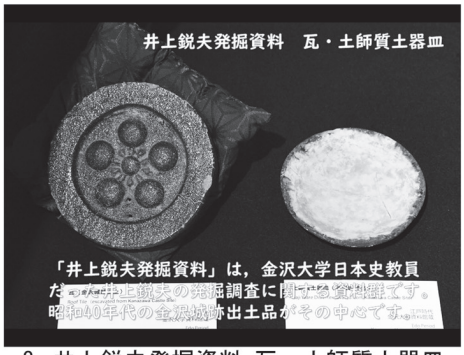
〔2〕井上は、昭和45（1970）年に福井県の一乗谷朝倉氏遺跡も発掘しており、出土品は「一乗谷朝倉氏遺跡発掘資料」として別登録されています。



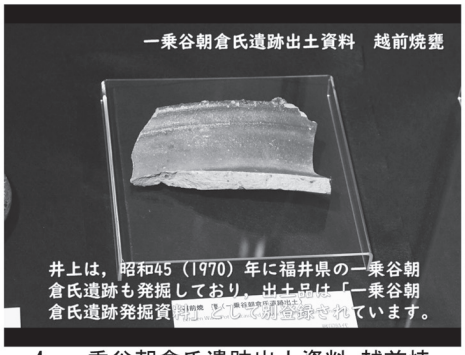
1. 四高考古資料 埴輪（巫女）



2. 四高考古資料 縄文土器・須恵器・珠洲焼

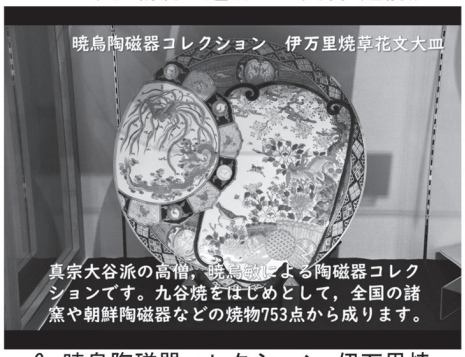


3. 井上鋭夫発掘資料 瓦・土師質土器皿



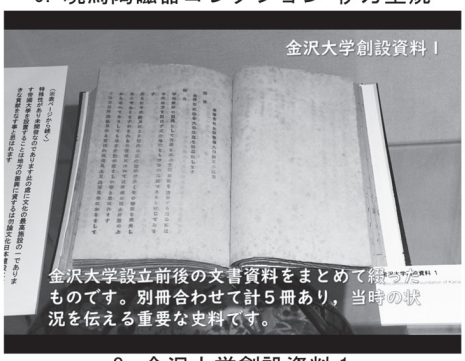
4. 一乗谷朝倉氏遺跡出土資料 越前焼

5. 大樋焼「角のある花器」



6. 暁烏陶磁器コレクション 伊万里焼

7. 暁烏陶磁器コレクション 九谷焼・京焼



8. 金沢大学創設資料１

写真５　動画資料紹介部分の画面写真３

⑭大樋焼

使用写真（写真5-5）：大樋焼「角のある花器」

解説文：〔1〕大樋焼は、加賀藩御庭焼として知られる金沢の焼物です。楽焼風の茶陶を中心とし、ねっとりした飴釉を特徴とします。

〔2〕当館の大樋焼は、珍しい形の花器で、第十代大樋長左衛門の作品です。平成11（1999）年、本学創立50周年を記念して寄贈されました。

⑮暁烏陶磁器コレクション

使用写真（写真5-6・7）：暁烏陶磁器コレクション 伊万里焼草花文大皿、九谷焼赤絵大鉢、京焼梅花文煎薬器

解説文：〔1〕真宗大谷派の高僧、暁烏敏による陶磁器コレクションです。九谷焼をはじめとして、全国の諸窯や朝鮮陶磁器などの焼物753点から成ります。

〔2〕暁烏の没後、遺族から本学教育学部に寄贈を受けましたが、平成元（1989）年のキャンパス移転に伴い、当館の所蔵となりました。

⑯金沢大学創設資料

使用写真（写真5-8）：金沢大学創設資料 1、別冊

解説文：〔1〕金沢大学設立前後の文書資料をまとめて綴ったものです。別冊合わせて計5冊あり、当時の状況を伝える重要な史料です。

〔2〕昭和26（1951）年頃、当時の庶務課職能係長の山知外男が編集しました。マイクロフィルム化されており、附属図書館で閲覧可能です。

このように、令和2年度の新常設展の中から代表的な資料をそれぞれ紹介した上で、まとめの末尾部分に移った。

末尾部分

使用写真（写真6）：資料館展示室内観、金沢医科大学開学写真、油彩画「薔薇」、ポータブル野外顕微鏡、超然の華こけし

1. 資料館展示室内観

2. 超然の華こけし

写真6　動画末尾部分の画面写真

解説文：〔1〕以上のモノ・文書の他にも、当館は金沢大学と前身校に関する資料を数多く所蔵しています。それらの全てが、本学の貴重な財産です。
〔2〕資料館一同、新型コロナウィルスの終息を心より願っております。展示再開の折には、ぜひとも足をお運びください。

なお、最末尾のスライドに使用した超然の華こけしの写真には、動画作成当時の特別な思いを込めている。この資料は、第四高等学校開学88年記念で作られたもので、何事にも動じない四高精神「超然」の象徴である。動画にはあえて書かなかったが、国内が新型コロナウィルスに右往左往する中、四高を受け継ぐ金沢大学の人間として[6]、強い意志を持って冷静に立っていたいという思いを込めたのである。

5. 資料館紹介動画の公開

こうしてできた資料館紹介動画の公開にあたり、動画共有サービスのYouTubeに動画を登録して、そのURLを資料館ウェブサイトに掲載する形をとった。これは、当該サービスは無料利用可能のうえファイルサイズや動画の長さなどの掲載に関する制限が少なく[7]、また登録動画へのリンクの形を取ることによって大学のネットワーク負荷を軽減できるからである。

なお、YouTubeへの動画登録にあたっては、資料館独自でGoogleアカウントを取得する必要があるものと考えていたが、情報部情報企画課職員の協力により、広報室を通して金沢大学の公式アカウントから動画登録してもらえることになった。4月17日の資料館定例打合せでそのことを確認した上で、4月20日に広報室にMPEG-4ファイルとタイトル・説明文を送り、翌21日午前11時から、晴れて動画公開となった。筆者を含む資料館員は4月22日から原則在宅勤務に切り替わり、現実的に可能な業務が限られる状態となったが、その前に公開が間に合ったのがせめてもの救いであった。

有難いことに、公開翌日には視聴回数200回を超え、1か月後の5月21日には600回を超えた。公開2か月半後の7月4日に1,000回を超え、3か月半を過ぎた8月7日に1,500回を超えた後も、視聴回数は伸び続け、公開から8か月半余りが経った令和3年1月11日時点で2,500回に達している。営利目的のYouTuberから見れば微々たる回数かも知れないが、資料館の所蔵資料に対して、少なからず興味を持った方々が見てくださったものと思っている[8]。

なお、動画公開開始を学内外へ発信するにあたり、資料館としては基本的に4月21日に記事・URLを公式ウェブサイトに掲載したのみであるが、同じ頃に筆者が大学博物館等協議会加盟館の教職員等にもメール連絡しており、それがある程度視聴回数につながったのかもしれない。

6. おわりに

令和元年度末から令和2年度にかけては、まさに混乱の一言に尽きる状況であった。日々学内外の状況が変わり、資料館の年間計画も大幅に変更することを余儀なくされた[9]。2月末から臨時休館が続く中、4月7日に東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・大阪府・兵庫県・福岡県を対象として国の緊急事態宣言が出され、4月13日には石川県と金沢市でも緊急事態宣言が出された。そして4月16日に国の緊急事態宣言が全国に拡大されると、石川県は特定警戒県に指定されたため、臨時

休館状態のまま資料館員は4月22日から原則在宅勤務となった。そして、5月6日までの予定だった国の緊急事態宣言が5月4日時点で5月31日に延長されたかと思えば、感染者が少なからずいる中で5月14日に石川県を含む39県が繰り上げ解除となり、石川県からの休業要請は5月20日に大幅解除となった。そして、一部で続いていた国の緊急事態宣言は5月21日に京都・大阪・兵庫が解除され、5月25日に全面解除となった。それから、石川県の休業要請が6月1日に完全解除となったものの、金沢大学では6月18日まで学生は登学禁止が続いた。結局、資料館が学内利用限定でも再開できたのは、第2クォーター授業開始日の6月19日であった。その後は、7月～8月の感染第2波、11月からの感染第3波[10] の到来を受けても何とか開館を維持できているが[11]、3ヶ月半に及ぶ臨時休館は資料館にとってかなりのマイナスであった。当館は無料館のため、減収したわけではないが、予定していた展覧会・イベントの数を減らさざるを得ず、来館者数も大幅に減少してしまったのである。しかし、そのような状況にあっても、ただ資料館を閉じるのではなく、せめて簡易的な動画だけでも発信しようとしたことには、十分意味があったものと思う。登録動画の大半が視聴回数数十回～数百回程度の金沢大学動画ライブラリの中では、比較的視聴回数の多い動画となっていることがその証拠である。

以上、臨時休館対応としての資料館紹介動画作成について、経緯や成果も含めて述べたが、今回は予算的にも時間的にも余裕がない中で作成したため、動画にはまだ改善の余地がある。例えば、無音となることを避けるためにフリー音楽素材のBGMを使用したが、それよりもちゃんとした台本を作って音声解説を入れた方が良かったかも知れない。あるいは、やはりビデオカメラ（またはスマートフォンやデジタルカメラ）を使用して学芸員が展示室を回りながら各資料を解説していくような演出にした方が良かっただろうか。そもそも、資料館にはモノ資料約77,000点、文書資料約11,000点があり、今回の動画で紹介したのはごく一部に過ぎない。特に、文書資料（四高関係文書・医学文書・理工文書・師範文書等）は写真映えしないため、ほとんど動画に出さなかったが、金沢大学の歴史を伝える資料としては非常に重要なものであり、カットインなどを駆使してもう少し紹介すべきであったかもしれない。これらは、今後の検討課題としておきたい。

冒頭で述べたように、資料館紹介動画は、第10代資料館長である奥野正幸先生の提案を受けて作成したものである。筆者が着任して以来4年間に渡ってお仕えしたが、常に資料館のことを考えておられる先生の姿勢には、尊敬の念を禁じ得ない。筆者の拙い動画作成が、少しでも先生のお役に立てたのであれば、これ以上のことはない。

末筆ではありますが、奥野正幸先生のこれまでのご指導とご厚情に心より感謝申し上げます。

註

1）筆者は、資料館を主所属とするが、同時に埋蔵文化財調査センターの実務を一人で兼務している。宝町遺跡第19次発掘調査は、附属病院第2立体駐車場新営工事を原因とするもので、駐車場予定地1,024㎡を対象に実施した。同調査では、近世・近代の遺構（近世：溝・土坑・ピット等、近代：眼科病棟基礎等）・遺物（近世：土器・陶磁器・瓦・土製独楽・土人形・寛永通宝・漆器椀・下駄・曲物底板・箸等、近代：病院食器・ガラス容器等）が少なからず見つかった。

2）資料館紹介動画を作成するにあたって、他大学の博物館紹介動画がないかYouTubeで検索し、名古屋大学博物館や九州大学総合研究博物館でコロナ禍より前から紹介動画が公開され

ていることを確認した。それらを踏まえた上で、できる限り他館とは雰囲気の違ったものになるように心掛けた。また、資料館紹介動画公開から約3か月後の7月16日に、明治大学博物館でも常設展紹介動画が公開されたことを確認した。

3) 具体的には、著作権フリーのBGM・音楽素材（用途・商用・加工の有無を問わず、無料で利用可能）をMP3形式でダウンロード配布しているFREE BGM DOVA-SYNDROMEのBGMから、長さと雰囲気がちょうど良いものを選択した（曲名：「朝の訪れ」、作（編）曲：まんぼう二等兵氏、再生時間：5分22秒、雰囲気／曲調／使用楽器キーワード：温かい、穏やか、優しい、日常、遅い、ゲーム、ヒーリング、ピアノ、弦楽器（高音域）、金管楽器（高音域））。

4) この1秒4文字ルールについて、豊倉省子氏と山田優氏が検証実験をおこなった結果では、1秒6文字でも視聴者に認知負荷を与えないが、1秒8文字になると認知負荷が高まったという（豊倉・山田2017）。

5) 当該動画のURLは、https://www.youtube.com/watch?v=GTptQxD0_Q8である。

6) 筆者は、金沢大学の特任教員（平成29年4月着任）であるだけでなく、金沢大学出身者（平成8年4月入学、平成12年3月文学部史学科卒業、平成12年4月大学院文学研究科史学専攻入学、平成15年9月大学院文学研究科史学専攻修了、専門は考古学）でもある。

7) YouTubeにアップロードできるファイルの上限は、動画1本につき128GBまたは12時間のいずれか小さい方である。これは、他の動画共有サイトよりも制限が少ないと言える。例えば、Vimeoでは、利用者のメンバーシップレベルに応じて制限が課されており、標準的な無料メンバーシップの場合、週当たりのアップロード容量500MB、総ストレージ容量5GBである（有料のビジネスパッケージであるVimeo Businessでは週当たりのアップロード制限なしで総ストレージ5TB、さらに上位のVimeo Premiumでは週当たりのアップロード制限なしで総ストレージ容量7TB、高画質動画向き）。

8) 視聴回数の中には、博物館実習や地域概論などのオンライン授業での利用も含まれていると見られるが、登学禁止・遠隔授業期間であった第1・2クォーターを中心に、資料館が把握していない授業利用もあった可能性があり、一般利用と授業利用の比率は不明である。

9) 当初予定4月14日～6月12日の前期企画展（前半）「写真で見る前身校 PartI」が6月19日開始にずれ込んだだけでなく、6月18～8月21日の前期企画展（後半）「写真で見る前身校 PartII」を11月9日～1月20日の学生企画展（本来ならば博物館実習生が自由に題材を決める企画展）の指定題材とすることになり、また10月3～5日の日本考古学協会金沢大会に合わせて開催する予定だった9月1日～10月26日の特別展が同大会延期とともに中止となった。

10) 令和3年1月8日から東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県は再び緊急事態宣言発令となり、1月14日には栃木県・岐阜県・愛知県・京都府・大阪府・兵庫県・福岡県も対象地域に追加された。さらに、独自の緊急事態宣言や感染拡大警報を出す自治体が相次ぎ、石川県でもモニタリング指標を見直して1月21日に独自の「感染拡大警報」が出された。

11) 令和2年11月9日から、金沢大学附属中央図書館とともに事前予約制で学外者の利用も可能となった。ただし、1組最大5名まで、利用時間30分以内という制限付きである（中央図書館は1組最大2名まで、利用時間1時間以内）。

参考文献

金沢大学資料館 2020『金沢大学資料館だより』第62号

豊倉省子氏・山田優 2017「字幕翻訳における文字数制限の妥当性についての検証～1秒4文字は妥当か～」『通訳翻訳研究への招待』No.18、pp.33～52、日本通訳翻訳学会